

東京都スポーツ振興審議会

第 24 期第 5 回 議事録

平成 26 年 3 月 31 日（月）

都庁第一本庁舎北塔 4 2 階特別会議室 A

午後 5 時 00 分開会

○早崎部長 定刻になりましたので、始めさせていただきます。オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部長の早崎です。

ただいまより、第 24 期第 5 回東京都スポーツ振興審議会を開会させていただきます。本日は、お忙しいところ、また、年度末でご多用のところ、ご出席を賜りましてありがとうございます。恐縮ですが、座って説明させていただきます。

会議に先立ちまして、前回の審議会から委員の変更がございましたのでご紹介させていただきます。

大井俊博委員でございます。

○大井委員 大井です。よろしくお願いいたします。

○早崎部長 徳留道信委員でございます。

○徳留委員 こんにちは。

○早崎部長 続きまして、今年 1 月 1 日付けでスポーツ振興局を改組し、オリンピック・パラリンピック準備局を新たに設置する組織改正がありました。これに伴いまして幹部の人事異動がありましたので、転入の幹部職員を紹介させていただきます。

オリンピック・パラリンピック準備局長、中嶋正宏です。

○中嶋局長 よろしくお願ひします。

○早崎部長 オリンピック・パラリンピック準備局次長兼スポーツ推進担当理事、岸本良一です。

○岸本次長 よろしくお願ひいたします。

○早崎部長 総務部長の鈴木勝です。

○鈴木部長 よろしくお願ひいたします。

○早崎部長 大会準備部長、延與桂です。

○延與部長 どうぞよろしくお願ひいたします。

○早崎部長 そして、私はスポーツ推進部長の早崎です。

以上です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、まず、局長の中嶋よりご挨拶を申し上げます。

○中嶋局長 オリンピック・パラリンピック準備局長の中嶋です。本日は、お忙しい中、スポーツ振興審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、平成 25 年 3 月に策定しました東京都のスポーツ推進計画のこの 1 年間の取組状況をご報告させていただきます。

会議に先立ちまして、私から何点か申し上げます。恐縮ですが、座って説明させていただきます。

まず 1 点目ですが、昨年 9 月に、東京開催が決まりました 2020 年のオリンピック・パラリンピックについてです。都民・国民の皆様、そして関係者の皆様の総力が結集しまして今回の招致が実現いたしました。委員の皆様におかれましても、力強い応援をいただき、

この場をお借りしまして、改めて厚く感謝申し上げます。

都は、本年1月、スポーツ振興局からオリンピック・パラリンピック準備局に組織改正を行うとともに、大会の運営主体となる組織委員会をJOCとともに設立しまして大会の準備体制を強化しました。この2月に就任した舛添知事のもと、2020年大会を史上最高のものとするため、組織委員会と連携してJOCなどのスポーツ界、政府、経済界などとオールジャパン体制で万全の準備を進めてまいります。委員の皆様におかれましては、引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

次に、「スポーツ祭東京 2013」についてです。「スポーツ祭東京 2013」は、国民体育大会と全国障害者スポーツ大会を初めて一つの祭典として開催しまして、スポーツ大会の新しい開催の仕方を全国に発信するものとなりました。大会期間中には、延べ120万人を超える方々に参加していただきまして、大盛況のうちに終えることができました。この大きな祭典の開催につきましても、委員の皆様には多大なるご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

最後に、本日の議題の中心でありますスポーツ推進施策の取組についてです。都は、2020年大会の東京大会の決定前に、委員の皆様方にご審議をいただきまして、スポーツ推進計画を策定しました。2020年大会が決まった今、その開催準備との両輪で「スポーツ都市東京」の実現を目指し、スポーツ推進の取組を加速しまして、世界トップレベルのスポーツ実施率70%を達成していきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、これからご報告する都の取組に忌憚のないご意見をお願いするとともに、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○早崎部長 それでは、事務局より、定足数の報告及び資料確認をさせていただきます。

○関口課長 本審議会の委員総数は20名ですが、中野副会長、阿部委員、荒木田委員、武井委員につきましては、本日ご欠席の連絡をいただいております。このため、本日は15名の委員の皆様にご出席をいただいておりますので、東京都スポーツ審議会条例第7条第1項に基づく審議会開催に必要な定足数である過半数に達しておりますことをご報告申し上げます。

なお、小林委員につきましては、所用のため途中で退席されるということです。この場でご報告いたします。

次に、お手元に配付しております資料の確認をさせていただきます。

まず次第があります。次に、東京都スポーツ振興審議会第24期委員名簿があります。次に座席表があります。次に、A3サイズの資料目録があり、その後ろに、資料1として「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会について」という2枚組の資料があります。続いて資料2として、『「スポーツ祭東京 2013」について』があります。そして、資料3として、『「東京都スポーツ推進計画」の主な取組状況（平成25年度について）」』ということと5枚組の資料があります。資料4として、「平成26年度オリンピック・パラリンピック

準備局予算（概要）」があります。資料 5-1、5-2 ということで、平成 26 年度の補助金・分担金事業の資料が 2 枚付いております。

また、資料の他に、「スポーツ祭東京 2013」の報告書、DVD、第 67 回都民体育大会及び第 15 回東京都障害者スポーツ大会合同開会式のご招待状が入った封筒がありますが、これについては後ほどご案内いたします。

不足・落丁等がございましたら、係員へお申し付けください。

○早崎部長 よろしいでしょうか。

それでは、以降の進行は杉山会長にお願いしたいと思います。

○杉山会長 杉山です。どうぞよろしくお願いいたします。

去年の秋、東京オリンピック・パラリンピックの招致成功、そして、「スポーツ祭東京 2013」の大成功、委員の皆様方もそれぞれのお立場でいろいろと関わられたことと思います。そのときから冬を経て、既に春になっておりますが、改めて、この 2 つの成功にお祝いとお慶びを申し上げたいと思います。この間、さまざまなご苦勞がありました事務局の皆様方に、特に敬意を表するものでございます。おめでとうございます。

それでは、本日の会議を始めさせていただきたいと思いますが、ご承知のとおり、本会議は公開で開催しております。報道機関の皆様、傍聴の皆様方、会議の進行にご協力くださるようお願いいたします。

この時点をもちまして、カメラの取材はご遠慮いただきたいと思います。よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

それでは、本日は、事項が 5 点あります。まず 1 つ目、「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会について」です。この資料の説明を事務局からお願いします。

○延與部長 私、大会準備部長の延與です。資料の説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、本日は、お手元の資料 1 に基づいてご説明申し上げます。資料 1 をお開きください。

「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会について」ということで、まず左側の「1 大会概要」についてです。「(1) 会期」ですが、オリンピックは、平成 32 年(2020 年)の 7 月 24 日から 8 月 9 日まで、パラリンピックは 8 月 25 日から 9 月 6 日までの 13 日間の開催を予定しております。

「(2) 実施競技」ですが、オリンピックは 28 競技を 37 会場で、パラリンピックは 22 競技を 20 会場で行う計画としております。また、パラリンピックの競技数については、今年 10 月に開催されます IPC（国際パラリンピック委員会）総会において 1 競技が追加される予定になっております。

「(3) 会場」についてですが、オリンピック大会では東京圏の 33 会場の 85%が、また、パラリンピック大会では 20 会場のうちの 95%が、選手村を中心とした半径 8 km 圏内に配

置されております。それぞれの競技会場の整備主体、建設状況、施設につきましては、下記の表に記載のとおりでございます。

資料右側の「2 推進体制」です。2020 年大会は、大会組織委員会と東京都が緊密な連携のもとで大会準備を進めてまいります。まず「(1) 一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」についてです。大会組織委員会は、大会の運営主体でありまして、大会運営の計画・準備、IOC との連絡調整、仮設施設の整備、マーケティング等を行います。1 月 24 日に設立されまして、基本財産は設立時で 3 億円、東京都と JOC がそれぞれ 1 億 5,000 万円の出捐金を出資しております。会長には、元内閣総理大臣・公益財団法人日本体育協会名誉会長でいらっしゃいます森喜朗氏が就任されました。

次に、「(2) 東京都」として、東京都の役割についてです。開催都市として、大会組織委員会を全面的にサポートしますとともに、会場の整備、輸送インフラ等の都市機能の向上、安全対策、さらには教育プログラム、文化プログラム等を大会組織委員会とも連携しながら推進してまいります。

続きまして、「3 大会開催基本計画」についてです。これは、大会開催準備の基礎となる計画で、今後の準備を着実に進めるために策定するものです。大会開催の目的や競技会場・輸送・セキュリティといった分野別の計画について、実施体制やスケジュールなどを記載してまいります。IOC・IPC 国際競技連盟等とも協議を行いながら、大会組織委員会と東京都が連携して策定し、来年 2 月までに、IOC 及び IPC に提出する予定でございます。

参考として、資料の 2 枚目に、競技会場の配置図を添付しておりますので、ご参照いただければと思います。

簡単ですが、説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○杉山会長 延興さん、ありがとうございました。

資料 1 のご説明をいただきましたが、資料 2 のご説明をいただきました後、2 つあわせてご意見、ご質問を受けたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

○杉山会長 ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、次の事項になります『スポーツ祭東京 2013』について」の説明をお願いします。

○川合部長 スポーツ祭東京担当部長の川合です。私から、「スポーツ祭東京 2013」についてご報告させていただきます。資料 2 をご覧ください。

昨年、開催しました「スポーツ祭東京 2013」におきましては、皆様に多大なご協力、ご支援を賜り、おかげさまで、開会式、閉会式、競技会をあわせまして 120 万人以上の方が来場され、かつてないほど盛り上がった大会となりました。会期中、9 つの台風に見舞われながらも大きな事故もなく、滞りなく開催できましたことを、改めて感謝申し上げる次第でございます。

大会の実績につきましてご報告させていただきます。

まず、第 68 回国民体育大会につきましては、1 月 26 日から 2 月 1 日に冬季大会、9 月 28 日から 10 月 8 日にかけて本大会を開催いたしました。開催競技として、正式競技 40 競技、公開競技 3 競技、都民の方が参加できるデモンストレーションとしてのスポーツ行事を過去最多の 57 行事を都内全 62 区市町村で開催しました。なお、正式競技のうちスキー競技につきましては、秋田県が開催しております。

参加者数ですが、選手・監督、大会関係者、観覧者をあわせて 101 万人強でございます。

大会成績は、男女総合優勝の天皇杯、女子総合優勝の皇后杯とも東京都が獲得しました。東京都の男女総合成績は 3,486 点、女子総合成績は 1,622 点と、いずれも 2 位以下に大差をつけた断トツの成績でございます。

続きまして、資料右側に記載しております「第 13 回全国障害者スポーツ大会」です。こちらは、国民体育大会終了後の 10 月 12 日から 14 日までの 3 連休に開催しました。開催競技は、正式競技 13 競技と、正式競技以外に選択できるオープン競技を、これも過去最多の 17 競技開催しました。参加者数は 21 万人強となっております。

続きまして、資料左側中断の「東京ならではの取組」です。まず 1 つ目として、障害がある人となない人の連帯の輪を広げるため、両大会を一つの祭典として開催しました。共通の大会愛称は「スポーツ祭東京 2013」、スローガンは「東京に 多摩に 島々に 羽ばたけ アスリート」。マスコットキャラクター「ゆりーと」を掲げたことや、国体のデモンストレーションとしてのスポーツ行事において、障害がある人にも参加していただいたこと、さらには、両大会の間の 3 日間を「東京ユニバーサルスポーツ 3 days」として、ユニバーサルジョブなど、障害のある人も、ない人も参加できるイベントの開催を行うなどの取組を行いました。

次に、式典におけるオリンピック・パラリンピック開催に向けた演出として、国体の開会式を薄暮から夜間に開催しまして、火と光を活用した式典を実施しました。

今回の第 68 回国民体育大会は、多摩・島しょを中心に開催してほしいという要望から始まっておりますけれども、多摩地域の振興を目的に誘致したという国体の経緯から、市町村会にご協力いただきまして、多摩地域に関する情報誌、歴史・文化に触れる書籍を発行しました。

最後に、「ふるさと 47 応援プロジェクト」と題しまして、東京には全国からの出身者が集まっていることに着目し、都道府県ごとの応援団を組織しました。

また、今大会におきましては、資料の右側中段にありますように、東日本大震災復興支援の取組も行いました。大会の冠称として「東日本大震災復興支援」、合言葉に「とどけよう スポーツの力を東北へ！」を掲げ、都内避難者を開会式・閉会式への招待や、福島のお米の活用、「おもてなし」を展開したゆりーと広場の被災地支援ブースの設置、総合開会式における東北のお祭の紹介などの取組を行ったところです。

資料下段には幾つか写真を掲載しております。詳しくは、お手元配付の報告書と DVD に細かく掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

以上で、「スポーツ祭東京 2013」のご報告とさせていただきます。

○杉山会長 川合さん、ありがとうございました。

それでは、今、東京オリンピック・パラリンピック競技大会について、そして、スポーツ祭東京について、2つのご報告をいただきました。ご質問、ご意見などがございましたら、どうぞお手をお挙げください。

東京オリンピック・パラリンピックに関しましては、既に、あのブエノスアイレスの興奮から毎日のように、この面についてはさまざまな情報があり、また、本日このようなご報告をいただきました。既に皆様方ご承知のことだろうと思います。

スポーツ祭東京につきましては、国体そのものが、こういうものは東京都では盛り上がらないのではないかとよく言われますが、今、100万人を超す観客の方がいらっしゃるなど、非常に盛況でした。私も幾つかの会場に行きましたが、ボランティアの方たちが既に2020年を意識しているかのような行動で捉えていたことを非常に頼もしく思いましたし、また、この会がそこに連動していることをうれしく思いました。

どうぞ皆様方、感想などがございましたら、どうぞ。

○増田委員 私は、国体のときに、デモンストレーションのほうで、なぜか私がダブルダッチ協会の会長を務めているものですからお世話になりまして、多摩の方で開催させていただきましたが、本当に地域の方々がたくさん応援に来てくださいました。

ダブルダッチというのは、2本の縄跳びを回すものですから、選手には若い人たちが多くて、関係者も多いのですが、その会場の隣が、ご年配の方が活動している踊りのほうでした。ですから、全体の年齢がすごくよくとれていて、それも一体感がありまして、幅広い年齢層の方々が、国体を盛り上げようということで多摩地区でがんばっています方を肌で感じることができました。

また、いろいろご協力いただきまして、どうもありがとうございました。

○杉山会長 うれしい出来事でした。

その他に、皆様方。

○野川委員 私のほうは式典の担当をさせていただきまして、どのような反応が観客からあるかということで、実際にアンケート調査を行いました。開会式の晩と障スポの閉会式でしたが、両方とも式典が楽しすぎてアンケートに答えられなかったというようなことで、100部くらいしか返ってきませんでしたけれども、非常に評判がよかったです。

以上です。

○杉山会長 ありがとうございました。

他にございませんか。

○丸山委員 スポーツ祭東京 2013 で開催した正式種目や公開種目については、他府県の大会でもほぼ同様に開催していますが、全国から「東京はすごい！」と言われたのは、57種目に及ぶ『デモンストレーションとしてのスポーツ行事』を開催したことです。実は、当初50種目の『デモスポ』を開催することで日体協の理事会の承認を得ていたのです。その

後、大会事務局が日体協と交渉して 7 種目の追加を認めていただき、国体史上例を見ない 57 種目の開催となったのです。他府県の大会の『デモスポ』がほぼ 20 種目前後であることを考えると、これだけの多種目の『デモスポ』を開催したことは、「東京だからできたことの一つ」だと思います。

なお、スポーツ祭東京 2013 の終了後、「東京みんなのスポーツ塾」というニューススポーツの指導者を養成したり、ニューススポーツを都民に紹介したりする事業について、韓国の教育テレビが取材に来られました。東京のニューススポーツの多さと、東京都がニューススポーツの普及に力をいれている様子を、韓国では、今月上旬に放映されたと伺っています。

東京は、韓国など周辺国から「みんなのスポーツ」の先進都市として注目されております。今後議論されると思いますが、『スポーツ都市東京』を目指して、ニューススポーツの普及振興に一層力をいれてほしいと思います。

以上です。

○杉山会長 ありがとうございます。

先ほど局長がご紹介してくださいました、スポーツ実施率 70%の目標の手応えが既に、今の丸山さんのお話で得たような気がします。今回の国体は、単に総合優勝を飾っただけではなく、大きな成果を得たことは、東京都のスポーツのために大変うれしいことでした。

○間野委員 「スポーツ祭東京 2013」は大成功と聞いております。全国で初めて、国民体育大会と障害者スポーツ大会を続けて行い、日程を見るとわずか 3 日間を挟んで開催したと。

一方、2020 年にオリンピック・パラリンピックが、約 2 週間空きますが、健常者の大会と障害者の大会を続けて開催するということで見えてきた課題や、また、それが何かの教訓といいますか、気をつけなければいけないようなこと、手応えといったようなものとしてどのようなものがあったのか、教えていただけないでしょうか。

○川合部長 先ほどお話がありましたデモンストレーションとしてのスポーツ行事 57 行事、そのうち 44 行事が、いわゆるユニバーサルスポーツで、障害の有無にかかわらず取り組むことができる。これも史上最多の数でした。

そして、その会期の間に 3 日空きましたので、その間に取り組んだ「東京ユニバーサルスポーツ 3 days」も、障害の有無にかかわらず誰もが参加できる。そうした区分を取り払った取組が残っていくのかなと思っています。

○杉山会長 ありがとうございます。

国体あるいはオリンピックに関しましては、まだいろいろとご質問、ご意見があらうかと思いますが、次の 3 番目の項目に移らせていただきたいと思います。

それでは、「『東京都スポーツ推進計画』の主な取組状況」につきまして、資料のご説明をお願いします。

○関口課長 調整課長の関口です。一昨年は、1 年間という短い期間の中、「東京都スポーツ推進計画」の策定にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。この場をお

借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

私からは、平成 25 年度の東京都スポーツ推進計画の主な取組状況ということで、資料 3 をご覧いただきたいと思います。こちらは、都におけるスポーツ推進政策につきまして、計画に基づいて 5 つの戦略ごとに整理させていただいております。

まず 1 枚目、「戦略 1 スポーツに触れて楽しむ機会の創出」ということで、「する」「観る」「支える」といった、スポーツへの関わり方に応じてスポーツに親しむ機会の創出を実施してまいりました。

具体的な取組として、「するスポーツの推進」では、スポーツへの関心を呼び起こすきっかけとして、大規模なスポーツイベントを開催してまいりました。主な大規模な大会について列挙させていただいておりますけれども、まず、「東京マラソン 2014」です。こちらは、前回大会からワールドマラソンメジャーズの一つに加わりました。今回は天候も良くて、かなりハイレベルなレース展開が繰り広げられました。また、海外からも多くの市民ランナーが参加されたということもありまして、国際色豊かな大会に成長したなと感じております。

また、「スポーツ博覧会・東京 2013」ですけれども、こちらは、例年、「体育の日」記念行事として実施してきたところですが、今年度は、「体育の日」前後に、いわゆる「スポーツ祭東京 2013」が開催されるということで、開催期間を通常より 1 カ月早めさせていただきました。9 月 7 日、8 日の 2 日間で実施させていただきました。今回は、2020 年オリンピック・パラリンピック開催都市の決定に合わせてパブリックビューイングを行わせていただき、歴史的瞬間の感動を会場全体で共有することができました。

そして、「東京スポーツタウン 2013」ですが、普段はスポーツを見る場所ではない浅草寺を舞台にして、境内にトップアスリートが集結して、トランポリンや棒高跳びなどの競技風景を間近で見られるようなイベントを開催しました。

「チャレスポ! TOKYO」を紹介させていただいておりますけれども、こちらは、障害の有無や体力を問わず楽しめる種目を多数用意した障害者スポーツのイベントです。これまでスポーツに取り組みなかった障害がある方に、スポーツを始めるきっかけを提供し、障害のない人には、広く障害者スポーツの理解促進を図ることを目的として実施しております。平成 25 年度は、ボッチャや車椅子バスケット等 24 種類のスポーツ体験コンテンツを用意し、都内全域より 1,200 名を超える方々にご来場いただいたところでございます。

「TOKYO ウオーク 2013」は、誰でも気軽に参加できるスポーツイベントとして、TOKYO の名所などをめぐるウオーキング大会を都内 5 カ所で実施し、1 万 8,000 人以上の方々にご参加いただきました。

そして、今月 15 日ですけれども、「ニュースポーツ EXPO in 多摩 2014」として、グラウンド・ゴルフや綱引きなど、先ほど丸山委員からもございましたが、23 種目のニュースポーツを体験できるイベントを開催しました。また、当日は、多摩東京移管 120 周年記念事業ということで、「たま発! in Spring」という行事も同時開催されておりまして、約 3 万

人の方々にご来場いただきました。

続いて、「観るスポーツの推進」です。スポーツ観戦事業として、都民の皆様が多くのスポーツに触れて感動を体験できるように、大規模な国際大会など、観戦機会を積極的に提供してまいりました。

「支えるスポーツの推進」については、スポーツ基本法の制定に伴いまして、地域スポーツ活動におけるコーディネーターとしての新たな能力が求められるようになりました。スポーツ推進委員の資質向上を目的とした研修会を実施してまいりました。

また、障害者スポーツ事業のきっかけとなるよう、地域スポーツを支える担い手である区市町村職員、地域スポーツクラブなどを対象とした障害者スポーツセミナーを実施しまして、地域における生涯スポーツ振興のキーパーソンを育成してまいりました。

1枚おめくりください。戦略2として「スポーツをしたくなるまちづくり」として、ソフトとハードの両面からスポーツ環境の整備をしてまいりました。

具体的な取組として、まず、「スポーツ情報の発信」としまして、多様なスポーツ情報を検索できるポータルサイトとして、スポーツ東京インフォメーションを平成21年度から開設しておりますけれども、今年度は、ソーシャルネットワーキングサービスを活用した情報発信や、都内ランニングコースやサイクリングコースなどの情報を充実し、月平均3万件以上のアクセスをいただいているところです。

平成24年10月から開設しております障害者スポーツ専門のポータルサイト「TOKYO 障スポ・ナビ」では、公共スポーツ施設のバリアフリー情報、障害者スポーツイベント情報の他に、「スポーツ祭東京2013」や「ソチ2014パラリンピック冬季競技大会」などのタイムリーな特集記事を紹介しまして、障害者スポーツの情報も積極的に発信しております。

続きまして、「地域スポーツとトップスポーツの融合」では、今年度から新たに「東京アスリート・サイクル地域貢献モデル事業」を実施しております。都内4カ所の地域スポーツクラブにトップアスリートを指導者として派遣しまして、子供たちにさまざまなスポーツを体験していただくという事業を展開しております。

また、「まちかどスポーツの推進」ですが、地域スポーツクラブの設立促進・育成を行いつつ、現在、47区市町村に116クラブを設立することができました。地域住民が主体的にスポーツを楽しむ場として期待される地域スポーツクラブにつきましては、引き続き全区市町村への設立を目指すとともに、既設の区市町村におきましては、クラブの複数設置を推奨しまして、設立後のクラブにおいては、その自律的・安定的な運営基盤の確立を目指してまいります。

「障害者スポーツの開拓」として、東京都障害者スポーツ協会に配置している地域開拓推進員による、区市町村や地域スポーツクラブ、福祉施設などを訪問して実態把握や地域ニーズの掘り起こしを行い、身近な地域における障害者スポーツの取組を促進してまいりました。

ハード面ですけれども、都立施設の整備や武蔵野の森総合スポーツ施設の整備として、

2期に分けて工事を進めております。先の「スポーツ祭東京 2013」で使用した補助競技場については先行整備を実施しまして、平成 24 年 4 月から実施競技場として開業しております。2 期目の工事となるメインアリーナ、サブアリーナ、屋内プールの建築工事につきましては、平成 29 年 1 月末の竣工を目指して、昨年 12 月に契約し、着工しております。

「臨海副都心のスポーツ環境の充実」を記載しておりますけれども、こちらは、昨年 5 月 12 日に、シンボルプロムナード公園のランニングコースが開設されました。実は、東京マラソン財団が運営するランニング拠点の施設もオープンしております。開設当日の記念イベントでは、約 4km のファンランやトップアスリートによるトークショーなどを実施し、多くのランナーが臨海副都心を駆け抜けました。

また 1 枚おめくりください。3 つ目の戦略としては、「ライフステージに応じたスポーツ活動の支援」として、子供をはじめ、スポーツ実施率が特に低いとされる働く世代、子育て世代、そして高齢者といったそれぞれの世代や生活環境に応じてスポーツ活動を支援してまいりました。

まず「子供のスポーツの推進」ですが、「有明の森スポーツフェスタ 2013」として、テニスやランニングなど各種スポーツの体験教室を開催して、子供と保護者が一日スポーツにふれあえるイベントを実施しました。

また、「ジュニア育成地域推進事業」では、各地区の体育協会や競技団体と連携いたしまして、地域におけるジュニアスポーツの普及・振興やジュニア層の競技人口の拡大、有望な選手の発掘・育成を目的としたスポーツ教室やスポーツ大会、競技練習、指導者講習会などを支援してまいりました。

また、公立小中学校を対象として実施しております「アスリートの学校派遣事業 夢と未来を結ぶ『一日校長先生』事業」では、都内 62 の全ての区市町村に計 30 名のオリンピック・パラリンピックの出場選手を派遣して、実技指導や講演などを行っていただきました。

次に、「働き盛り・子育て世代のスポーツ推進」についてです。この世代につきましては、ワーク・ライフ・バランスの推進や育児中の都民が参加しやすいスポーツイベントの奨励などを通じまして、職場や地域をはじめとする身近な場所でスポーツに触れられる環境を整えていくことが重要と考えております。

「都民参加事業」では、資料掲載の事業例のように、働き盛りの世代や子育て世代が身近な地域でスポーツイベントに参加できるよう工夫している地域スポーツクラブのイベントに対して支援をしてまいりました。

ワーク・ライフ・バランスの推進では、「ワークライフバランスフェスタ東京 2014」を開催しまして、企業におけるワーク・ライフ・バランスの経営メリットに関するパネルディスカッションや、中小企業の優れた取組事例をご紹介させていただきました。

「高齢者のスポーツ推進」としては、高齢者がスポーツに参加する機会を創出する「シニアスポーツ振興事業」を実施しまして、地区体育協会からのご協力をいただきまして、

高齢者を対象としたスポーツ競技会、講習会などの実施をしてまいりました。

また、高齢者を対象としたスポーツ大会「シニア健康スポーツフェスティバル TOKYO」の開催や、国レベルのイベントである全国健康福祉祭「ねんりんピック」への東京都選手団の派遣を行ってまいりました。

1枚おめくりいただきまして、戦略4です。4つ目の戦略としては、「世界を目指すアスリートの育成」ということで、東京で育った選手がオリンピック・パラリンピックをはじめとする国際大会で活躍できるように多彩な才能の発掘・育成を行い、競技力向上を図ってまいりました。

まず、「競技力向上事業」として、東京のアスリートが国民体育大会やインターハイなどの全国大会で優勝や入賞を果たすことができるように、40の競技団体と連携した国体候補選手強化事業やジュニア特別強化事業による強化練習、強化合宿の拡大に取り組んでまいりました。その結果、「スポーツ祭東京 2013」、第68回国民体育大会では、2位の大阪府を大きく引き離して男女総合優勝を果たすことができました。

また、「トップアスリート発掘・育成事業」につきましては、都内の中学生1・2年生を対象にして、優れた運動能力を有するジュニア選手を、体力テストの結果などから選考・発掘して、次の年から1年間で育成するものです。競技種目は、高校生から取り組んでもトップが目指せるような競技、具体的には、ボート、ボクシング、レスリングなどの7つの競技を対象としております。国体や将来のオリンピック大会などで活躍できる人材を育成するために、スポーツ教育プログラムや現役のトップアスリートが取り入れている最先端のフィットネストレーニング、対象競技の体験プログラムなどのさまざまなプログラムを実施してまいりました。本事業の第1期生から第3期生は既に全プログラムを修了しておりまして、各競技団体から専門的な指導を受けております。

こちらにつきましても、国体での優勝や国際大会に出場を果たすなど、着実な成果を上げております。去る3月26日には、1年間の育成プログラムを修了した第4期生に対して修了証を授与し、また、新たに今回選考した第5期生に認定証を授与したところです。

続きまして、「医・科学サポート事業」について説明します。国体候補選手など有望な高校生を対象に、日本体育大学、日本女子体育大学、国士舘大学などと連携しまして、医・科学サポート事業を展開しております。平成25年度は、バドミントンや自転車など10種目109名の方々にサポートを実施してまいりました。具体的には、選手の体の形態や筋力などの測定、動作解析などを踏まえて、トレーニングメニューを改善したり、栄養摂取のアドバイスなどを行ったりしてまいりました。

こちらにつきましても、サポートの対象選手が国際大会に出場するなどの成果が上がっております。指導者からは、サポートを踏まえたトレーニングメニューの改善や充実を行うことによって選手の意識が向上して、選手が相互に高め合うととてもいいサイクルができたということだったり、選手からも、不必要な動作や自覚していなかったくせなどを客観的に理解することができたといったご意見もいただいております。

次に、「障害者スポーツ競技力向上事業」についてです。全国障害者スポーツ大会の正式競技種目を対象に強化練習会を実施してまいりました。9月に開催された全国障害者スポーツ大会におきましては、東京都スポーツ選手団の成績が、陸上や水泳などの個人競技で合計 314 個のメダルを獲得。車椅子バスケットボールやサッカーなどの団体競技では、出場した 12 チーム中 11 チームが上位 3 位までに入賞を果たしました。

1 枚おめくりください。5 つ目の戦略として、「国際交流、観光、都市づくり政策等との連動」ということで、東京が有するスポーツ資源の集積を有効に活用し、国際交流や観光、都市づくりなど、さまざまな分野の政策と連動してまいりました。

「国際都市東京のプレゼンスの確立」では、都のスポーツ推進に大きく寄与し、かつ、スポーツ都市東京を国際的にアピールできる大会について共催してまいりました。例として挙げさせていただいておりますが、「セブンズワールドシリーズ」につきましては、去る 3 月 22 日、23 日に開催させていただいております。

また、スポーツを通じた国際交流として、東京国際ユースサッカー大会やジュニアスポーツアジア交流大会で、都の姉妹友好都市やアジア都市ネットワーク会員都市からジュニア選手などを招きまして、交流試合を通じて参加都市の次世代育成や教育力向上に貢献してきました。

次に、「スポーツを通じた復興に向けた取組」について説明します。平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災地に対して、スポーツの力で被災県を元気にし、復興への機運を高めるためにさまざまな支援を実施してまいりました。今年度は、これまでの取組に加えまして、「未来（あした）への道 1000km 縦断リレー」を実施しました。こちらは、昨年 7 月 25 日から連続して 14 日間にわたり、青森県をスタートして、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の被災した地域を縦断して東京都まで、全長約 1,000km を、一般募集によるランナーを主体に、ランニングと自転車ですきをリレー形式でつなぎました。また、被災地と東京の子供たちのスポーツを通じた交流として、「スポーツ交流事業」や「アスリートとともに体を動かす機会を提供します「アスリート派遣事業」なども昨年同様実施してまいりました。

続いて、「スポーツツーリズムの推進」です。今年度は東京全体がスポーツで盛り上がった「スポーツ祭東京 2013」の開催に合わせまして、観光ガイドブックを配布するなど、積極的に観光情報を提供してまいりました。また、今年 1 月には、「TOKYO ウォーク 2013」の特別編として「伊豆諸島ウォーク in 八丈島」を開催し、離島ならではの自然景観と歴史的な景観の両方が楽しめるコースを設定しました。温泉への招待や、イベント終了後には、郷土料理を振る舞う懇親会を開催し、参加者の方々の交流も深めることができました。

このように、スポーツ推進計画に基づきまして、スポーツ都市東京の実現を目指してさまざまな取組を実施してまいりました。

私からの説明は以上です。

○杉山会長 関口さん、ありがとうございました。

小林委員、ご出席の時間が限られているそうですが、ここまでのところで、もしご発言がございましたら、どうぞ。

○小林委員 大丈夫です。

○杉山会長 そうですか。ありがとうございました。

皆様から、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。

○原田委員 この計画の中には、さまざまな戦略やメニューがたくさん展開されていて、どれも全て重要なものだと思いますが、やはり優先順位といいますか、力を入れるべきところ、ここは少しゆっくりめに展開するというように強弱をつけないと、こういう振興計画はなかなか動きません。最後の「スポーツツーリズムの推進」のところで、コメントですが、今、観光庁では、2020 年に向けて 2,000 万人のインバウンドの観光客を入れようということになっています。現在 1,000 万人なので、その倍になるわけですね。そのうちの 7 割が首都圏に来ます。スポーツ観光客は、たぶん 3～5 %くらいと言われていますので、そうすると 30 万人から 50 万人くらいの方がスポーツを目指して来ると。恐らく、都内は、あまりスポーツ観光客向けではないのですが、ベイゾーンには、オリンピックの後も 10 近くのオリンピック関連施設が残されますので、その最大有効活用を図るためにも、インバウンドの強化がかなり重要な課題になるのではないかと思いますので、今後、戦略的な重要要件として取り組んでいただければいいと思います。内需は、いろいろな意味でいろいろなものがシュリンクしていますので、外から観光客を呼び込み、それに値するものでオリンピックのレガシーを最大活用するという視点も生かしていただければと思います。コメントです。

○杉山会長 ありがとうございました。

ご質問は、戦略 1 から戦略 5 まで通していただきたいと思います。

○金委員 私も原田委員に同感です。非常に多岐にわたることなので、こうして報告していただくとしても数字が出てくるので、この数字は正確なものだと思いますが、ものによっては、これは少なすぎるのではないかなと思うものも実際にあります。それはそのままでもいいのか。以前から展開していたのでそのまま継続していいのか。それとも、ひょっとしたら、東京都ではなくて、これは他の民間だったり、国だったり、JOC だったりがあったほうがいいのかなと思うようなものもありますので、そのあたりを精査していくべきではないかなと思います。

例えば、戦略 2 の「スポーツ情報の発信」の「スポーツ TOKYO インフォメーション」ということで、月平均のアクセス数が 3 万件というのはかなり少ないと思います。これよりもはるかに多い情報が民間の中ではスポーツ情報が流れていますので、予算をかける以上はそうしたものの数値として発表する以上は、少し考えていかれたほうがいいのかなと思います。

それと、今、原田委員もおっしゃっていた「スポーツツーリズムの推進」のところで、インバウンドの話をされましたが、これは、私の専門であるマラソンの世界で言うとアウ

トバウンドというものもありまして、関東圏の人口が国の大部分を占めますので、スポーツを振興するというのは、外から東京にスポーツをしにくる人はたぶん少ないと思います。それだけではなくて、東京都民あるいは関東の人たちが他県にスポーツをしに行く機会もかなりあると思いますので、インバウンドだけではなくてアウトバウンドの発想も持って推進されたほうが、結果的に都民がスポーツをする機会が増えることになりますので、そのあたりの視点も入れていただければと思います。

以上です。

○杉山会長 ありがとうございます。

他にご意見、ご質問をどうぞ。

○山崎（泰）委員 戦略2の「スポーツをしたくなるまちづくり」のところで、いつも申し上げていることですが、例えばこの「都立スポーツ施設の整備」のところ、ぜひユニバーサルなデザインを考えていただきたいということを、ここで言っておきたいと思いましたので、ぜひお願いいたします

○杉山会長 ありがとうございます。

○間野委員 私たちは、戦略1の「東京スポーツタウン 2013」と戦略2の「東京アスリート・サイクル地域貢献モデル事業」、戦略5の「アスリート派遣事業」にかかわらせていただきました。そのアスリートが持つ力が地域の子供たちや人々に与える影響の大きさを改めて痛感しております。相当たくさんの方々が、毎度、東京都職員の皆さんも必ず来てくださって、むしろ、東京都の職員の皆さんが戦略3の「ワークライフバランスフェスタ」に参加しなければいけないのではないかと、そんなことを思っている次第です。

原田委員からありましたように、本当にお忙しくされていることはよくわかりますので、うまくその力をいろいろな団体で分担しながら進めていけるような方策も考えていただければいいのではないかと思います。ワーク・ライフ・バランスは冗談です。すみません。

○杉山会長 ありがとうございます。

他にご意見、ご質問はございませんか。

○野川委員 私は、間野委員がおっしゃったワーク・ライフ・バランスがここに入ってくるというのは、ちょっと違うのではないかと思います、その辺のところはいかがですか。

身体活動という面であればわかりますが、スポーツ振興という、これだけが異色な感じがして、東京らしいのかなと。

○関口課長 ワーク・ライフ・バランスについては、スポーツをする時間がなかなか取れない方もいるのだろうということで、このような取組を推進すると。本来、これは産業労働局の事業です。間接的な形になりますが、そういう意味では、こういうライフスタイルを実現することによって、子育てもそうですし、スポーツを楽しむような時間を創出するという観点から、この事業を入れさせていただいております。

○野川委員 わかりました。

○杉山会長 間野委員、今の件で特にご発言がありますか。

○間野委員 結構です。

○杉山会長 それでは、他にございませんか。

○野川委員 もう一つよろしいですか。

○杉山会長 はい、どうぞ。

○野川委員 戦略4のところの「トップアスリート発掘・育成事業」ですが、これは国が振興してもいいのではないかというかもしれませんが、都立高校でスポーツに特化している高校が何校かありますね。そういう学校との連携はされていますか。

○関口課長 この事業では、まず中学生の募集を行い、新しい競技を見つけているという、いわゆるお見合いのような事業になっております。その後、高校生になってからは、実際のところは競技団体との連携が主になっております。そういう意味では、例えば駒場高校であるとか、体育主眼の高校というのは、進学との関係もあるので、直接的には、今のところは連携していないのが現状です。

○野川委員 特別枠のようなものは設けないのですか。

○白井課長 教育庁指導部の白井です。

特別枠を設けるということはしていません。ただ、文化・スポーツ等特別推薦制度がありまして、その中で、特化した生徒を取るという制度が全都立高校にあるので、そうした中で対応しているのが現状です。

○野川委員 ありがとうございます。

○木内委員 東京の高校でスポーツをという、都立高校ではどうなっているのかということになりますが、東京の過半数の高校生は私立学校の生徒ですから、東京のこの計画では、私立学校も含めた形で考えていただかないと偏った考えになると思いますので、よろしくお願いいたします。

もう一つですが、今までの推進計画やスポーツ祭東京の成功など敬意を表するものですが、せっかく東京の参宮橋に国立青少年教育振興機構の施設があり、これからオリンピックに向けて、海外から青少年が来たときに、あそこには宿泊施設もあるわけですから、そのことの協力体制がこれからは必要なのではないかと思います。

それから、先ほど、都民が外でスポーツを体験するということでは、青少年教育振興機構の中には、日本全国に青少年向けの施設もあり、スキーなどの体験もできますので、せっかく東京にあるそういう機構なので、文部科学省の所管ですが、もう少し何か協力体制が組めると、両者にメリットがあると思います。

○杉山会長 ありがとうございます。

○金委員 今、教育の話が出ましたので。

これをざっと読ませていただいて、何か一つ足りないなと思って考えたら、せっかく2020年のオリンピックに向けて、オリンピックというものの教育を、私立も公立も含めてしっかりうたっていくべきではないかと思います。

私が知っている、ある外語大の学生のところで一つのプロジェクトが立ち上がりまして、

外語大ですから、2020年のオリンピックに向けて、通訳を学生ボランティアで育成していくというところが実際にもう出てきています。現場ではそういう動きがありますので、東京都としても、オリンピックの価値や意義など、選手や運営する陣営だけではなくて、ボランティアなりいろいろなことで関わってくると思っていますので、それを小学生から教育するべきだと思います。そうしたことをうたっていてもいいのではないかと思います。

○杉山会長 ありがとうございます。

○白井課長 教育庁のほうですが、公立になりますけれども、今まで、これは私学部も含めて、学習指導要領上は体育理論とか、小学校だと社会の歴史の中で若干、東京オリンピックについて触れております。それだけではまだまだということで、実は、スポーツ教育推進事業をこれまで行ってきて、オリンピックを学ぶ機会の充実を図ってきました。

2020年オリンピック・パラリンピックが決まりまして、実は、来年度から、教育庁ではオリンピック教育推進校として都内300校を指定して、オリンピックの学習の充実について、まずは学校の実態に応じてどのように充実させたらいいかということを研究・推進するような事業を平成26年度から始めてまいりますので、その中で広がっていけばいいなと考えております。

○金委員 わかりました。

○杉山会長 その他にご意見ございませんか。

○増田委員 「スポーツ祭東京2013」などにあらわれているように、東京は日本の先頭を切っているような、先駆けて何か新しいことをするという印象を誰もが持っていると思います。そうした視点でいくと、先ほど、原田さんがおっしゃったのでしょうか、優先順位を戦略につけていくことを聞きまして、私が思うには、障害者スポーツの競技力向上、これは強化練習会を開いているようですが、こういう練習会をいろいろな場所で増やしていくことと、あとは、今、日本中で言われているのが、健康寿命ということを見ると、働き盛りの30代、40代の運動不足が大きく言われていて、東京都は、全体的な実施率を70%にしようとしていく中で、ここはすごく大事なことだと思います。

ですから、競技力向上の練習会や、子育て中の方々が親子で参加できる機会などを増やしていくこと。また、増やす場所などは、私は思うのですが、例えば2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、江東区は多くの競技会場がある地域ですから、もう盛り上がっていますね。だけど、東京都の中で盛り上がっていない地域もたくさんあります。すごく温度差があります。ですから、むしろ、そのような、6年後に向けて、青梅のほうなどは結構遠いので、そういう盛り上がりには欠ける場所で、こういうイベントを増やしていったら、みんなで同じ方向に向かうという形で進めればいけないではないでしょうか。そんなことをふと考えました。

○杉山会長 ありがとうございます。

確かに、盛り上がっている地域が既にあるとは聞いていますが、考えてみれば、まだ2,300日あるわけですから、この2,300日が長いのか、短いのか、私にはわかりませんが、少な

くとも本日のご報告をいただきますと、都のスポーツ推進計画の中に、オリンピック・パラリンピックを視野に入れながらいろいろなものが動いていくことは間違いないだろうと思います。これまでにご発言いただいた皆様方のご意見も、そういうことがベースにあるかと思しますので、今日出ましたご意見、ここまでのところ、事務局のほうでまたご整理いただければと思います。

他にどうぞ。

○丸山委員 一点お願いします。オリンピック・パラリンピックの開催についてですが、多くの都民は「国別対抗メダル争奪戦」のイメージを抱いています。実は、I O CやI P Cが提唱している「スポーツ・フォー・オール」という大事な目標があります。これは、東京都が成人の週1回スポーツに親しむ割合（スポーツ実施率）を70%にするという数値目標を掲げたことに関連があります。この機会に、オリンピック・パラリンピックでは「スポーツ・フォー・オール」こそ大事だということを都民に向けてPRしていただきたいと思います。このことは立候補ファイルにも書き込んで世界に向けて約束していますし、オリンピックレガシーにも関わってきますので、平成26年度からはぜひ力を入れていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○杉山会長 丸山委員のお話は、私もいつも共鳴するのですが、スポーツ・フォー・オール、「スポーツはみんなのもの」と訳すのか、「みんなのためのスポーツ」なのか、両方だろうと思いますが、ぜひまたこれも、新しいこの審議会の大きなテーマとしてお考えいただければと思います。

なお議題を残しておりますので、質疑はここまでにしたいと思います。

それでは、次に4番目の「平成26年度オリンピック・パラリンピック準備局予算（概要）」について、ご説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○関口課長 それでは、ご説明させていただきます。資料4をご覧ください。

平成26年度のオリンピック・パラリンピック準備局の事業体系と予算額を資料の左側に整理させていただいております。また、右側には主要な事業について内容を示させていただいております。

局の予算総額としては、左側の表の最下段にあります、243億3,900万円でありまして、前年度に比べて64億1,600万円の減、割合で申し上げますと21%の減となっております。この減少の主な要因ですが、「スポーツ祭東京2013」の終了によるものです。

左側の「I 事業体系と予算額」の枠をご覧ください。まず、「1 管理費」につきましては、局の職員費等の管理事務費を計上しております。

「2 スポーツ振興施策の企画調整」は、審議会運営や都立体育施設の改修などの経費を計上しております。約15億5,000万円の減となっておりますが、こちらは、東京辰巳国際水泳場の改修工事が終了したことに伴うものです。

内訳2つ目の「スポーツ施設整備費補助」についてご説明させていただきます。資料右側

の「Ⅱ 主要事業」の1で「スポーツ施設整備費補助 2億円」と書いてありますので、こちらをご覧ください。これは今回初めて行うもので、区市町村が行う施設整備の取組を支援しまして、都民のスポーツ環境を整備するために、競技スポーツの拡大を行う新築・改築・増改修工事またはバリアフリー工事を対象とした補助金を新設しました。平成26年度は2億円の予算を計上させていただいております。

左側に戻っていただきまして、「4 スポーツの振興」についてです。「生涯スポーツの振興・地域スポーツの振興」は、スポーツレクリエーションの振興を図るために多くの都民が参加できる各種大会の開催やシニアスポーツの振興、地域スポーツクラブの支援などの主な経費、これをあわせて約1億5,200万円を計上しております。

その下の「スポーツムーブメントの創出」につきましては、さまざまなスポーツイベントを開催するとともに、被災地の子供たちを招待した交流事業を実施する経費などを計上しております。こちらは、約7億4,000万円を計上しております。

次に、「5 体育施設等の運営」です。指定管理者による東京体育館等6体育施設の運営費、区部と多摩にあります2つの障害者スポーツセンターの運営費として、約24億8,200万円を計上しております。

次に、「6 総合的な競技力向上施策の推進」として、約12億円計上しております。2020年東京オリンピック・パラリンピックで活躍する東京育ちのアスリートを育成するために、来年度から、これも新たに日本代表選考会出場候補選手強化事業を行います。この他にも、ジュニア選手の発掘・育成、スポーツ医・科学に立脚したテクニカルサポート事業を推進してまいります。

次に、「7 東京大マラソン祭りの開催」です。東京マラソン、東京大マラソン祭りの開催に係る経費として、約2億4,700万円を計上しております。

次に、「8 武蔵野の森総合スポーツ施設の整備」です。新設工事等の経費として、約22億9,500万円を計上しております。

次に、「9 障害者スポーツの振興」です。約2億3,700万円を計上しております。障害者が身近な地域でスポーツができる環境の整備を進めるとともに、障害者スポーツの普及・啓発を図るなど、パラリンピックの開催都市としてふさわしい障害者スポーツの振興を行ってまいります。

最後に「10 オリンピック・パラリンピック準備費」です。各競技施設整備のための基本設計や大会開催基本計画の策定、大会組織委員会に対する出捐金の経費として、約100億6,800万円を計上しております。

以上が平成26年度のオリンピック・パラリンピック準備局の予算概要でございます。
○杉山会長 ありがとうございます。

ご了解を得られれば、次の資料5に掲げております社会教育関係団体のスポーツ関係の補助金・分担金事業の説明とあわせてと思いますが、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

○杉山会長 それでは、引き続きお願いします。

○関口課長 それでは、説明させていただきます。こちらは、資料 5-1 と 5-2 で分かれています。資料 5-1 がスポーツ関係、資料 5-2 が学校教育関係です。

まずスポーツ関係ですが、東京都体育協会は、平成 26 年度は 9 億 8,100 万円余りとなっております。これまでと同様に、ジュニアの競技力向上や国体への選手派遣などについて取り組むほか、先ほど触れさせていただきましたように、来年度から新たに競技力向上事業の一環として、日本代表選考会出場候補選手強化事業を実施することとなりました。また、都民体育大会と東京都障害者スポーツ大会の合同開会式や被災地支援事業についても引き続き実施してまいります。

東京都スポーツ文化事業団につきましても、7 億 6,300 万円余を計上させていただいております。広域スポーツセンター事業や、医・科学サポート事業を今度はテクニカルサポート事業とさせていただいておりますが、この他にジュニアスポーツアジア交流大会など、国際交流事業についても、この団体と共催しております。来年度からは、新しく都や日本ウオーキング協会とともに、TOKYO ウォークや多摩川ウォーキングフェスタなど、ウォーキング面とも共催することとなりました。経費は縮減となっておりますけれども、都民のスポーツへの関心を高めるための施策の充実に引き続き取り組んでまいります。

東京都障害者スポーツ協会ですが、先ほどご紹介させていただきました地域開拓推進事業や理解促進事業などの障害者スポーツ振興事業を拡充して実施してまいります。この他に、東京都障害者スポーツ大会の開催や全国障害者スポーツ大会の選手派遣のために 2 億 2,000 万円計上しております。

東京都レクリエーション協会ですが、都民スポレクふれあい大会、ニュースポーツの普及・PR を目的とした東京みんなのスポーツ塾、ニュースポーツ EXPO in 多摩など、子供から高齢者までを対象としたニュースポーツのイベント等の経費として約 3,200 万円余を計上しております。

この他、東京都市町村体育協会連合会、東京都スポーツ推進委員協議会の 2 団体につきましても、それぞれ都と共催する大会または研修会への分担金を計上しております。

スポーツ関係は以上です。

○白井課長 続きまして、資料 5-2 の学校体育関係の説明です。よろしくお願いいたします。

左の列から 3 列目、「補助対象事業名」の欄を中心に目で追っていただければと思います。団体別に記載しておりますが、各学校体育団体が主催する総合体育大会の補助金・分担金となります。平成 26 年度は、最下段の約 1,895 万円で、前年度に比べて約 50 万円の減となっております。その内訳ですが、上から順にご説明します。

まず大会名ですが、東京都高等学校総合体育大会が 464 万 6,000 円。東京都中学校総合体育大会に 559 万 6,000 円。東京都高等学校定時制通信制総合体育大会に 345 万 9,000 円。東京都ろう学校総合体育大会に 103 万 3,000 円。東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校総合体育大会に 161 万 4,000 円。全国高等学校定時制通信制軟式野球大会に 83 万 5,000

円。全国高等学校定時制通信制体育大会に 76 万 5,000 円。関東ろう学校体育大会に 20 万円。関東高等学校体育大会の 3 種目に 60 万円。関東中学校体育大会の 1 種目に 20 万円を計上しております。

なお、平成 26 年度の全国ろう学校体育大会は、他県開催のため、今回は予算計上していません。

学校体育関係は以上です。

○杉山会長 ありがとうございます。

いろいろとご苦労を重ねてここまで積み上げられたものだろうと思います。ご意見、ご質問がございましたら、どうぞ。

○金委員 質問が 2 点あります。

1 点目は、資料 4 の予算のところで、6 番目の「総合的な競技力向上施策の推進」ということでこれだけの予算ですが、具体的には、どのような分配というか、例えば、強化指定選手のクラスを決めて、それによって分配しているのか。競技団体によってもいろいろな方法がありますが、東京都の場合はどのような使われ方をしていますか。

○関口課長 こちらにつきましては、東京都体育協会を経由して、今、国体の競技団体の体協加盟団体が 40 団体ありますが、こちらにそれぞれの分配をしております。その中で、例えばジュニア強化認定の選手だったり、国体の候補選手が、強化合宿や強化練習を行う場合、この補助金を使っていただく形になっております。

その他、6 番の 11 億円の中には、先ほど紹介させていただきましたトップアスリート発掘・育成事業やテクニカルサポート事業の事業費も含まれております。

○金委員 今のお話ですと、国体強化費がほとんど占めるような印象を持つてしまうのですが。そうすると、国体で、その種目で点数を取るために、合宿費補助というのはよくある話ですが、ここに書いてあるのは、2020 年東京オリンピックで活躍する東京育ちのアスリートの育成ということですので、若干違うのかなと思います。

○早崎部長 確かに、ここでの書きぶりですと、ほとんどが各競技団体に行くようなイメージですが、実際は、それよりも、先ほど申し上げた高校生や中学生に向けた事業展開のための費用、区市町村が中心になって実施している事業などに行きますので、比率的に言うところ、この十何億円の大部分が行くわけではありません。むしろ、それは国の役割です。

○金委員 わかりました。

もう 1 点は、資料 5-2 の学校体育関係の分担金事業についてです。これを見ていると、中体連や高体連の大会に対する補助金だと思いますが、これは、そのイベントの総予算に対する何割補助のような規定は、このように出されているのでしょうか。補助金何割というものがありますよね。

○白井課長 それぞれ毎年度、共催という形で、中体連や高体連が必要とする経費を計上していただき、共催の形をとっていますので。

○金委員 では、何割ということではないと。

○白井課長 はい。この大会を運営するのに必要なものだけ共催して分担している形です。

○金委員 それ以外は、スポンサーを募ってということでしょうか。全額ではないですね。

○白井課長 やはり学校体育なので、基本的に各中体連、高体連で対応している部分もありますけれども、都でも援助していくという中で、あまり大々的には対応していないという記憶があります。ゼロではないのですが。

○金委員 わかりました。ありがとうございます。

○杉山会長 他にご質問をどうぞ。

○間野委員 平成26年度はトータルで243億円。一自治体で非常に多くの額がついており、これも都民や議員の皆さんのご理解、ご支援のおかげだと思いますが、オリンピック・パラリンピック準備費に100億円を引くと残りが143億円になります。そのうち体育施設の企画調整費が39億円、5番の体育施設の運営が25億円で、あわせると64億円。使える143億円のうち48%を占めます。加えて、8番の武蔵野の森総合スポーツ施設の23億円を加えますと、全体の60%が施設関連で、新設と維持・管理で行われると。

一方、資料1を見ると、新たに10の施設が新設されるという中で、ランニングだけで予算の40%あるいは半数以上が施設にかかるという現実を考えた場合、新設の10施設を、少ない維持費でどう整備していくのか、あるいは、収入が増やせるようなものをつくっていくのかということ等を考える必要があると思います。オリンピックは17日間、パラリンピックは13日間、あわせて30日間でしょうか、そのためだけではなくて、それが終わった後、そのコスト負担が最小限になるように、また、利用が最大になるように、そして、収入もより多くなるようなことを、今すぐに考え始めないと間に合わないのではないかと思います。

資料を見る限り、IOC、IPCに、来年2月までに計画を提出しなければいけない段階のようですので、建設してしまつて、30日のオリンピック・パラリンピックを大成功させることはとても大事ですが、施設の寿命は30年も40年もあるわけですので、その後のことも見据えた計画づくりが必要ではないかと考えました。

意見です。

○杉山会長 ありがとうございます。

今の間野委員のご意見には同調なさる方もたくさんいらっしゃると思います。十分、東京都の皆様方もその点を考えられてさまざまなプランを立てられていると思います。また、この審議会の最初のころ、江戸っ子オリンピックをつくろうじゃないかというご発言もありまして、一方で、そういう人づくり、選手づくりということもあったような気がします。

今後、この予算は、オリンピックが近づけば近づくほど、パラリンピックが近づけば近づくほどいろいろな問題があるかと思いますが、出ましたご意見を事務局で掘り下げてさまざまなご検討をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

他にご意見ございますか。

○野川委員 間野委員のご意見と類似しているのですが、ポスト 2020 をもうそろそろ立ち上げないと遅れてしまうという感じがします。2020 年というのは、団塊世代が全部 70 歳になりますので、当然、スポーツで体力をつける云々とは少し違うステージになっているだろうと思います。

もう一つは、施設が充実してきて、指導者もいて、いろいろなジュニアアスリート、パラリンピアンも出たけれども、その次のビジョンがないと、スポーツの振興、ワーク・ライフ・バランスということもなかなか進まないと思います。例えば、ユースオリンピックを持ってくるのか、あるいは、ワールドゲームズを次に持ってくるのか、個別のいろいろな世界的なものを持ってくる、これは大変だと思います。でも、それを考えていくような場所あるいはチームを立ち上げておかないと、場当たりので終わってしまうことになりかねないということが少し懸念されます。

もう 1 点は、やはり間野委員と同じですが、9 番の「障害者スポーツの振興」と 4 番の「生涯スポーツ振興・地域スポーツの振興」が、1 桁違うのではないかと思います。これだと、本当にスポーツを振興しているのかと言われかねないと思いますので、再度ご検討いただければと思います。

○杉山会長 ありがとうございます。

2020 年 9 月 7 日からが勝負だということは、私もよくわかります。それと並行しながら、本日は、私どもがいただいております任期の最後ですので、今、間野委員や野川委員がおっしゃったことを次期の委員会への申し送りのような形にさせていただいて、東京オリンピック・パラリンピックがすばらしい成果を上げられるように期待したいと思います。

この数字について、特にございませんか。

○原田委員 同じような意見になって恐縮ですが、10 の新しい施設の年間維持費を合計すると 30 億円とか 40 億円くらいの数字になろうかと思います。ロンドンの場合は、イーストロンドンに巨大な商業集積施設ができたおかげで、ロンドンオリンピックの費用が 3 倍くらいにかさんだのですが、開催してよかったねという意見が多くありました。東京の場合、オリンピックの後、よく「五輪不況」などといいますが、それに見舞われないようなかなり斬新な東京モデルをつくり上げないと、間野委員や野川委員の意見と全く同じですが、今それを作らないと待たなしの一番重要な事業という感じがしますので、最後に一言付け加えさせていただきます。

○杉山会長 ありがとうございます。

皆様方には、この会議以外のさまざまなオリンピック・パラリンピックの会議にご出席なさる機会があるかと思いますが、本日ここに出ましたご意見などもその都度ご紹介いただければ大変ありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

他にございませんか。

これが最後の議題になりますが、資料 4 と資料 5 でお示しいただきました事項につきましては、全委員のご理解をいただきたいと思います、ご理解いただけますか。よろしゅ

うございますか。

(「異議なし」の声あり)

○杉山会長 ありがとうございます。

事務局の方、ご説明ありがとうございました。資料4、資料5について、よろしくお願いいたします。

それでは、本日予定していました事項は全て終了しましたが、本日ご出席いただきながらご発言いただいていない方がいらっしゃいます。

初めてご出席いただきました徳留委員、大井委員、この会へのご感想も含めて何かございますか。

大井委員からどうぞ。

○大井委員 東京都高体連の大井です。

昨年の「スポーツ祭東京 2013」を契機に、オリンピック・パラリンピック招致も決まり、平成26年8月1日に、南関東4都県でインターハイのブロック開催を行います。味の素スタジアムで、やはり薄暮開催ということで、スポーツ祭東京の開催が大変参考になりました。ただ、お金もありませんので、あの規模まではできませんが、それを参考にしながら、南関東4都県でインターハイを成功裏におさめたいと考えておりますので、またご協力方、よろしくお願いいたします。

○杉山会長 夏のインターハイのご成功を心からお祈りいたします。

徳留委員、お願いします。

○徳留委員 2つの意見といいますか、提案したいと思います。

一つは、東京都のスポーツ推進計画は、2020年まであと6年ありますが、オリンピック・パラリンピック成功の期間とが重なります。その中で、いかにして都民にスポーツを浸透させて活性化するかという点で、心配なことがあります。実は、オリンピック準備のために、既存の施設の廃止計画があり、親しんでいる方々から、オリンピックは大歓迎でがんばってきたけれども、なれ親しんだ施設、具体的には大井ふ頭中央海浜公園の野球場6面がホッケー会場に変わるということに対して、少し厳しい言葉で言うと、野球連盟としても全力でオリンピック招致のためにがんばってきたのに、野球を愛する全ての者からすると不条理の感がある、痛恨の極みだという声も出ています。やはりオリンピック種目だけではなくて、それ以外の種目もできるような環境、条件づくり、施設などについても、しっかりと配慮していく必要があるのではないかと思います。

もう一つは、どなたかのご意見にありましたが、オリンピック教育を大事にしてほしいと思います。1964年当時、私は小学6年生でしたが、あまりそういう教育がされたという記憶がありませんけれども、実際は教育されていました。それから、1972年の札幌の冬季オリンピックの際にもオリンピック教育がされていました。オリンピックが持つ大事な精神を都民あるいは国民に浸透させていくことが、オリンピックそのものの成功の条件となると思います。オリンピックのレガシーが、施設だけではなくて、オリンピックの精神が

国民の中に広がることによってスポーツも活性化するし、「平和と友好の祭典」という大事な精神が広く国民に広がるような努力も必要ではないかと思います。東京オリンピックと札幌オリンピックの際は、たしかテキストを作成して子供たちに教育したという文章を読んだことがあります。やはりオリンピック精神を改めて教育しないと、本当に気高い精神を持っているというのは、普通の常識ではつかむことができないと思います。そういうものも今後6年の中で、ぜひ具体化が必要ではないかと思います。

以上です。

○杉山会長 ありがとうございます。

それでは、いつも最後になってしまって申し訳ありませんが、中屋委員、高野委員、河村委員、一言ずつ、河村委員から順にお願いします。

○河村委員 今、私どもも「スポーツ祭東京 2013」に携わりまして、私どもでは自転車競技を行いました。2年を通じて、いろいろな人が関心を持ってきているという点で、今後とも多くの人たちがスポーツに関心を持つためには、2020年のオリンピック開催が決まったことについては、田舎のまちですが、みんな喜んでおります。今後とも、スポーツが盛んになることによって、若者から高齢者まで、元気で長生きして生活ができることを願っております。

○高野委員 高野です。いろいろとありがとうございました。

先ほど増田委員のお話がありましたが、デモンストレーション競技として行われたダブルダッチとフォークダンスは府中市の総合体育館で開催いただきました。あの当日、外は雨でしたが、会場内は、小さな子供から高齢者の皆さんまで非常に幅広い年代の方が大変積極的に活動されていたことを、非常に新鮮な目で見ていました。「スポーツ祭東京 2013」は、そういった意味で大きな成果があったと我がまちでも思っております。

先日、この効果を記憶に残そうということで、京王線の府中駅前に、ゆりーとの碑を設置しまして、ボランティアの方々と一緒にその完成を喜びました。ボランティアの皆さんと一緒にやって行えたその記憶が永遠に残るかなと思っておりまして、大きな成果があったと思います。

そうした意味では、これもまた増田委員が先ほどお話しいただきましたけれども、2020年のオリンピック・パラリンピック開催の機運は、もちろん多摩の都民もみんな同じように持っているわけですが、会場が身近にないということで盛り上がりには欠けてしまっているいけないので、いろいろな盛り上げのためのイベントなどを、会場にはならない地域に企画していただき、東京全体で盛り上げるような機運の醸成をお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

○中屋委員 中屋です。

いろいろなお意見が出まして、大変勉強になりました。一定も、予算委員会も終わりました、大体可決しまして、明日から新年度がスタートするわけですが、今回、オリンピック・パラリンピック招致が決定したということで、我々は、この決定までに、各都

道府県、政令指定都市も回りまして、いろいろな方々のご協力をいただき、議会でも承認していただいたりということもありました。ですから、東京、東京ということも大切ですが、全国の皆さん方からお力をいただき勝ち取ったものだということを絶対に忘れないで、この6年間進めていかなければいけないと私は思っています。

また、ビーチバレーなどはオリンピック競技として非常に人気があるスポーツですが、実は、支部としての運営がまだできないような競技が幾つもあります。そういう競技の選手をこれからどう育成していくかも大事だろうと思っています。これは、東京都の中でも考えなければいけないことではありますが、今後のスポーツ全体の機運を盛り上げていくためには、そういうことも必要だと思っています。

あと、昨年の国体は大変すばらしかったわけで、私も開会式に行きましたが、式典もすばらしかったです。ただ、一つ申し上げるとすると、警備にあまり力を入れすぎて、鍵がかかって、出たくても出られなかったということがありました。これは、今後いろいろと参考にして、これから39年ぶりのインターハイもありますから、そういうものにも参考にして、全部施錠して開会式が終わるまで出られないということがないようにしていただければいいかなと思います。

以上です。

○杉山会長 皆様、ありがとうございます。たくさんのご意見をいただきました。

本日予定していた事項は全て終了しました。ありがとうございます。

最後に事務局から連絡事項がありましたら、お願いします。

○早崎部長 本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

1点、ご案内がございます。このたび5月11日の日曜日、東京体育館において、都、東京都体育協会、東京都障害者スポーツ協会の共催によりまして、都民体育大会及び東京都障害者スポーツ大会の合同開会式を開催することになりました。ご多用のところ恐縮ですが、委員の皆様におかれましては、可能であれば合同開会式へのご臨席を賜りたくご案内申し上げます。本日、ご招待状を机上にお配りさせていただいております。議員の委員の方につきましては、別途ご案内させていただけると思います。同封されております返信用紙にて、4月18日の金曜日までに、ご出欠のご連絡をいただければ幸いに存じます。お手数をかけますけれども、よろしくお願いいたします。

さて、第24期のスポーツ振興審議会は今回で最後となります。一昨年5月に委員にご就任いただきまして、既に2年間5回にわたりまして、その間、東京都スポーツ推進計画、また、オリンピック・パラリンピックの東京への招致、スポーツ祭東京2013の成功と、その間にわたりまして貴重なご意見を賜りまして、本当に厚く御礼申し上げます。

また、皆様方からいただきました今回のご意見、2020年に向けた取組について多面的にご意見をいただきました。また、2020年の先を見据えた展開につきましてもご意見を賜りまして、それらのご意見を私どもとして真摯に受けとめて取り組んでまいりたいと思います。今後とも東京都のスポーツ推進にご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いしたい

と思います。

以上です。

○杉山会長 ありがとうございました。

私どもも、東京都の画期的・歴史的な成果を上げたその期に委員となりましたことを、大変うれしく、また、誇りに思っております。ますます東京都のスポーツが繁栄されますようにお祈りいたしまして、この期のこの会を終了させていただきたいと思います。

皆様、どうもありがとうございました。

午後 6 時 35 分閉会